

「心の冒険・サマースクール」に係る新型コロナウイルス感染防止対策

2022年4月29日

健康観察

- 参加者及びスタッフは、事前説明会及び本プログラム実施の2週間前から、健康観察及び検温を実施し、記録する。
- 発熱及び断続的な倦怠感や咳等の体調不良が見られた場合は、かかりつけ医や保健所の指示に従い、担当課へ状況を連絡する（参加の自粛を要請する場合もある）。
- プログラム実施中は、1日1～2回（朝・夕など）健康チェック（検温）の実施・記録を行い、体調不良などの健康観察を行う。発熱等の症状が見られた場合には、即時隔離等の必要な措置を講じ、保健所や病院などの指示に従う（参加者の帰宅要請やプログラム実施の中止などもあり得る）。

宿泊

- 宿泊室の利用人数は、定員の半数以下（目安）を基本とする。
- 宿泊者同士の配置距離は、1m程度（目安）に保つことを基本とする。
- 窓やドアの開放は、30分に1回などのような時間単位よりも常時開放（10～20cm程度）で換気することを基本とする。
- 一人ずつにテントが確保できる場合は、屋外でのテント泊を実施することもある。
- 就寝時のマスク着用は基本的に必須ではない。
…就寝時のように基本的に会話をしない状況ではマスクは不要である。むしろ、マスク着用により、息苦しくなり口からの呼吸（口呼吸）が助長される結果、口からより多くの微生物（ウイルス等）を体内に吸ってしまったり、喉が乾燥し喉粘膜による異物排除機能が低下したりするリスクもあるため推奨されない。実際にマスクを着用しても、マスクと鼻・目が接触していない隙間からウイルスが入ってくることから科学的及び現実的ではない上に、そもそも就寝時では会話をしていないため、飛沫等の感染リスクは低いことから、必ずしも必要とは言えない。さらに、基礎疾患のない学童などの健常人レベルにおいて就寝時のマスク着用が感染対策上、必要・有用であるという科学的根拠（報告）も現在のところ見当たらない。
以上のことから、就寝時のマスク着用は実践的感染対策として、不要と考えられる。

日中の活動

- 室内ではマスクを着用し行動する。
- 屋外では、熱中症や口呼吸による微生物（ウイルスなど）侵入予防の観点から、基本的にマスク着用は必須ではない。ただし、密着するような近距離や会話などの活動状況時では適時マスクを着用する。

調理及び食事

- 調理時は、手洗いや手指消毒（適時）を行い、マスクを着用する。
- 一つの料理を複数人で食べ回しをしない（他人と料理を共有しない）。
- 食事中的会話は控え、食べ終わった後にマスク着用を指導する。
- 使用した食器類は、通常の洗浄・自然乾燥を行う。
…いわゆる日常的な衛生的管理で十分であり、エタノール消毒は不要である。

衛生管理

- 適時、着替え・入浴（基本的にはシャワー）・洗濯を行い、清潔な状態を保つ。
- 手洗いや手指消毒は、必要に応じ適時行う（石けん手洗いと消毒の併用までは不要）。

その他

- 班の人数は、例年1班8人編成だが、活動時及び就寝時の密を回避するために、随時、編成人数は感染状況を総合的に勘案しながら調整（減らす等の対応）する。
- マスクは基本的に使い捨てが望ましい（洗濯して繰り返し使用するタイプも可能）。
- 空間除菌グッズを用いた感染対策は、人に対する有害作用リスク予防の観点及び実際の生活環境下での使用効果は認められていないため、使用は控える。

※本書は、山陽小野田市立山口東京理科大学薬学部教授 頼岡克弘 (Infection Control Doctor) の監修・指導に基づき作成しています（令和4年4月29日改訂）。